

# マイナスイオンの バリアフリー

鹿角市の大湯温泉から十和田湖に向かう国道103号の途中で、八戸方面に向かう国道104号が分岐している。その分岐点から104号側に少し進んだところに、「車イスで見れる滝」という案内板が出ている。

大湯温泉の周辺には、大小20カ所余りの滝が点在している。ただ、そのことは近年まで地元でもよく知られていなかった。これらの滝で地域おこしができないものかと、最初に声を上げたのは地元のドライブインの社長さん。それに呼応して、大湯で電器店を営む湯瀬政弘さんが先頭になり仲間の商店主に呼びかけて、滝の周辺を整備して交流人口の増大を目指そうという活動が始まった。それが平成2年のこと。

活動のスタートから20年近くを経たが、難問山積の20年だったと湯瀬さんは振り返る。滝の周辺は国有地だったり私有地だったりして、許諾関係の手続き等がスムーズにいかないことも多かったようだ。

それでも挫折せずに今までこれたのは、地域を思う仲間たちの情熱あればこのことであつたらう。活動の意気を感じて破格の値段で整備に協力してくれる業者もあつたとか。

大湯は元々、お年寄りの施設も多い地域。高齢者や車イスの人にも楽に滝を見てもらえるようにできないものかという声が自然に出てきた。

そうなるもまた湯瀬さんたちは俄然張り切る。クルマで滝壺の近くまで行ける滝を選び出し、草を刈ったり地面の段差をなくしたり…。

「車イスで見れる滝」の案内板の先には、湯瀬さんたちが整備に力を入れた銚子の滝、錦見の滝、湯の又の滝の3つの滝がある。ことに銚子の滝は、滝壺の前までクルマで乗りつけられるようになっていて、車内からでも間近に滝を眺められる。

もし皆さんのお身内に外出の機会が少ない方がおられたら、今年の夏はクルマで大湯の滝見物に連れていかれてはいかがだろう。マイナスイオンを浴びて、いっぴく晴れやかな笑顔になつてもらえるのではないだろうか。



銚子の滝は江戸時代の紀行家・菅江真澄も訪れた名瀑。滝壺の前は平坦な広場になっていて直接クルマでも乗りつけられるし、車イスでも動き回りやすくなっている。